

世界遺産登録に向けて

鶴子銀山(2) 銀山発見と商人たち

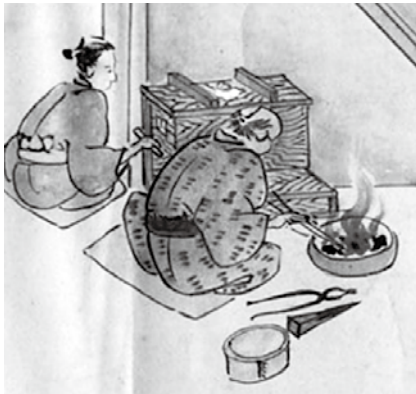
「奥山に金気の立にぞありける」ことを見た越後寺泊の商人外山茂右衛門は、沢根に上陸して土地の者と相談し、この地を治めていた地頭本間撰津守に願い出て、鶴子銀山を稼ぐことになりました。茂右衛門は、数年来佐渡に渡海していた商人ですが、石見銀山でも同じように商人が銀山開発に深く関わっています。

大永6(1526)年石見銀山を発見した神屋寿禎は、博多の有力商人で、出雲の鷺浦銅山で銅を買付け、朝鮮半島や日本海沿岸で交易を行っていました。彼は、鷺浦銅山の山師であった三島清右衛門とともに石見銀山の開発を進め、当初は鉱石を博多(一説には朝鮮半島)に送り、銀の製錬を行ったとされています。

すでに、朝鮮半島北部の端川銀山では、16世紀の初め、砕いた鉱石を加熱し、鉛を灰に染み込ませて銀を得る灰吹法が導入されていました。朝鮮では灰吹法は門外不出で、これを倭人(日本人)に漏らしたとして、天文8(1539)年柳諸宗という地方の役人が処罰されています(村井章介『世界史の中の戦国日本』)。

寿禎は、天文2(1533)年に、博多にいた宗丹と桂寿という灰吹法の技術者を石見に呼び寄せ、銀を増産させます。もともと朝鮮から彼らを呼び寄せたのも寿禎であるといわれており、寿禎の活発な動きがうかがえます。

このように、灰吹法等の新しい技術は、日本海を行き来する商人のネットワークによって、各地に伝えられたと考えられています。茂右衛門も、これらの商人たちによってもたらされた情報をもとに、鶴子にやって来たのかもしれない。



灰吹法の図
「佐渡国金掘の図」より

◆市役所世界遺産推進課(金井就業改善センター内) ☎63-51336

〈イベント情報〉

月日	時間	イベント名	主催
7月24日(日)	10時～18時	あいぽーと佐渡ハーバーマーケット with キラ☆キラふえすた	ハーバーマーケット実行委員会/きらきら塾
	13時～15時半	千羽トキの詩 コンサート	折紙千羽トキの詩の会/佐渡生きもの語り研究所
7月31日(日)	9時～	クルーザーヨット 体験セーリング	オアシス2016夏 実行委員会
8月8日(月)	13時30分～	YAMATO 夏LIVE in SADO	TEAM YAMATO

6.11(日) 8.28(日)
大館料 大人1000円 中学生1000円
鬼太鼓の世界展
佐渡年中行事絵巻から紐解く、5つの鬼太鼓のかたち
あいぽーと佐渡 〒952-0011 佐渡市南佐渡384-11 TEL0259-67-7833
SADO INFORMATION CENTER https://www.city.sado.niigata.jp/017_0017/

「あいぽーと佐渡」 ☎67-7633

〔2階 展示室情報〕
佐渡の伝統芸能 鬼太鼓の世界展
江戸時代の「佐渡年中行事絵巻」から、5つの鬼太鼓のかたちに分類したパネル解説と実際に使用した鬼太鼓道具を展示し、その地域の鬼太鼓を動画でご覧いただけます。
展示期間 8月28日(日)まで
入館料 大人 300円
小・中学生 100円
團佐渡インフォメーションセンター

あいぽーと佐渡 Sado Information Center 情報

あいぽーと佐渡は、「みなとオアシス佐渡両津」の認定を受け、両津港周辺地域の賑わい創出を行っているほか、会議、セミナー、イベント等の会場として幅広く活用されています。